

視察等活動報告書

視察及び研修会における結果について、下記のとおり報告します。

令和5年7月28日

光市議会議長 木村 信秀 様

光市議会会派 こう志会

代 表 中 本 和 行

議 員 萬 谷 竹 彦

議 員 林 節 子

議 員 中 村 讓

議 員 西 村 慎太郎

記

1 視察日時 令和5年6月29日(木)～7月1日(土)

2 視察場所

(1) 埼玉県戸田市

(2) 埼玉県志木市

(3) 東京都港区新橋(NPO法人セレニティ)

3 視察テーマ

(1) 教育改革の取組について(戸田市)

(2) 「健康寿命のばしマッスルプロジェクト」について(志木市)

(3) 大切な人を自死で亡くすということ

(NPO 法人セレニティ)

4 視察結果 別紙のとおり

こう志会視察報告書

日時	令和5年6月30日（金） 10時00分～12時00分
調査市名	埼玉県戸田市
テーマ	教育改革の取組について
調査市人口・面積	141,218人 18.13k㎡
市議会議員定数	26人（4常任委員会）

概要 戸田市は、人口増加による教室不足と校舎の老朽化により教育予算の多くが校舎の新設・増築・改築に充てられる側面を持っています。そのため、教育の内容に関しては戸ヶ崎 勤 教育長を中心に、教育改革コンセプトとして「AIでの代替が難しい力の育成」、「産官学と連携した知のリソースを活用」として、ファーストペンギンを目指すことで、安価で効率的に、質の高い教育の提供を目指すなど、様々な先進的取組を実施。また、クラウドファンディングなどを活用して稼ぐ教育委員会として昨年から約500万円資金を集めるなど積極的な取組を展開しております

内容

1 戸ヶ崎勤 教育長の自己紹介

- ・第12期 中央教育審議会委員
- ・中央教育審議会 初等中等教育分科会 質の高い教師の確保特別部会
- ・文部科学省「令和の日本型学校教育」を推進する地方教育行政の充実に向けた調査研究協力者会議など



2 教育改革前の戸田市の状況

- ・小中学校ともに、学力・体力平均が低く、非行問題行動や不登校などが大きな課題
- ・戸田市の小中学校を希望する教職員がほとんどいない
- ・管理職登載者不足のため市外から補充
- ・埼玉都民とも言われ、埼玉に住んでいるが東京で働くという人が多いため地域教育への愛着が低い



3 戸田市の教育改革

教育改革のコンセプトを「AIでの代替は難しい力などの育成」・「産官学と連携した知のリソースの活用」・「経験と勘と気合（3K）から客観的な根拠への船出」・「授業や生徒指導等を科学する」として様々な改革をSEEPプロジェクト「S:Subject（教科教育）E:EBPM（経験と勘と気合いから客観的な根拠へ）E:Edteck（教育とテクノロジーの融合）P:PBL（課題解決型学習）」の形に具現化している。

- ・PBLを実施するに当たっては、intelを始めとする様々な企業からの協力を取り付け、最先端のPC機材の導入・CADを導入した設計・3Dプリンターを導入するなど、児童生徒が自発的に調査研究ができるように環境を整えている。また、市が開催するプレゼン大会でPBLの学習成果は発表するアウトプットの場まで用意することで知的好奇心を引き出す学びを具現化する取り組みをしている。
 - ・その他の取組、ICT教育の促進、メディアリテラシー向上の取組、戸田型オルタナティブ・プラン、不登校対策ラボラトリー「ばれっとラボ」などの取組も展開されている
- こういった様々な取組によって、学力・体力・非行問題行動などの問題は改善されてきている。

4 質疑応答

- ・PBLを実施するに当たっては、CADなど専門的スキルが求められると思うが教員で対応しているのか。
→ICT支援員がおり、専門的な支援を実施している。
- ・不登校生徒のSOSの早期発見支援は、どのように行われるのか？
→不登校対策ラボラトリー「ばれっとラボ」で、不登校を科学しようと試みており心の健康観察アプリ

「シャボテン」を活用し、データを収集しこれから分析し、不登校になる可能性が高い生徒に対しては教員がわかるようなアラートを出し適切な対応をできるような仕組みの構築を目指している。

5 委員所感

【中本 和行】

戸田市の教育は、全国でも大きな注目を集めて全国からの教育者や議会、関係団体が視察に訪れています。「世界で活躍できる人間」の育成を目指され、子供たちが将来に向けて生きていくためにどんな教育が必要か考えて最先端の教育を進めています。

教育長は、長い教育に従事され知識と経験と情熱に感銘を受けました。

大変勉強になり今後の議会の活動に活かさなければならぬと強く感じました。

【萬谷 竹彦】

まず、教育長の戸ヶ崎勤氏は、中央教育審議会をはじめさまざまな政府委員も務める、キーパーソンの一人であると感じました。そしてこれからは、子どもたちのよさを伸ばすことを最優先すべき。そのためにも、まずは動き出し、困っている子にはプッシュ型で支援をしていく。そんな公正主義に立つことで、学力、いじめ、不登校、発達障害などさまざまな理由で取り残されている子どもを救っていくことができるのではないかという考え方を実践されています。光市もしっかりと取り組んでいくべきことがたくさんありました。今後の参考にさせて頂きたいと思います。

【林 節子】

戸田市では、人口増加により教室不足、校舎の老朽化は改築、増築、新築にて対応されている。

教育現場では、小中学校ともに学力、体力、非行問題、不登校が課題であるが、戸田市を希望する教職員がおらず市外から補充している状態から、戸ヶ崎勤教育長を中心に教育改革に取り組む。

「産官学連携した知のリソース活用」、ICT 活用促進、新たな学びのため（次期学習指導要領）、学校職員の働き方改革を最優先に進めている。

不登校生徒には「ばれっとラボ」「心の健康観察アプリ・シャボテン」を活用することにより教員が適切な対応ができる。生徒の多様性に応じた教育を推進している。体力面でも、専門家が体力向上の支援を行っている。また、教育委員会が、クラウドファンディングを活用し、校舎の建築費用500万円の資金を集めるというプロジェクトも展開されている。

【中村 譲】

戸田市の教育改革は、地域の子供たちの未来をより良いものにするために重要な取り組みだと感じました。教育は社会の基盤を形成する重要な要素であり、それによって子供たちの成長と発展に大きく影響されるからです。

まず、戸田市の教育改革の一つである先進的な教育手法の導入は素晴らしいと思います。ICT やホワイトボード&プロジェクター等の新しい技術を取り入れることで、子供たちの学び方が多様化し、個々の能力に合わせた教育が実現されると思います。これによって、生徒たちが自らの興味や才能を伸ばすことができる環境が整えられると期待されます。

また、教師の専門性向上に力を入れている点も評価できます。教師がより高い教育水準と指導力を持つことで、生徒たちにより良い教育を提供できるのではないのでしょうか。教師の働き方改革にも力を入れており、教師の働きやすさやモチベーション向上も大切な要素であり、彼らを支援する体制が出来ていると感じました。

光市においても、引き続き課題に向き合いつつ、地域の協力を得ながら進化していくことが大切と感じました。

【西村 慎太郎】

市としては人口の増加により、学校施設の増築・新築や老朽化対策などハード面に予算の大半を使わなければならない状況で光市とは状況が大きく異なります。しかし、産官学連携によって Intel を始めとする様々企業と研究協力することで予算を掛けずとも質の高い最先端の教育の提供をしていると感じました。これ

からの時代を生きていくに当たって必要な能力が何かを考える教育委員会の姿勢が特に素晴らしいです。たとえば、AI などのツールを活用するための力を身に着けるための教育、PBL を積極的に取り入れることや CAD・3D プリンターを利用できる環境を民間との提携により整え、自ら考える能力を伸ばしていくなど常に未来志向で教育を科学しています。民間企業の協力を得て、限られた予算の中で、子どもたちの未来のために教育を考えていく姿勢は光市においても大いに参考になると考えます。これからの活動に積極的に活かしていきます。

こう志会視察報告書

日時	令和5年6月30日(金) 14時00分～16時00分
調査市名	埼玉県志木市
テーマ	健康寿命のばしマッスルプロジェクトについて
調査市人口・面積	76,463人 9.05 km ²
市議会議員定数	14人 (2常任委員会)

概要 志木市は都心に近く、自然と都市の利便性が融合した魅力的な地域です。かつては農業が主要産業でしたが、現在では商業やサービス業も盛んです。市内には多くの商店街や商業施設があり、地域の活性化に寄与しています。志木市には様々な文化施設やスポーツ施設があります。また、地域の歴史や自然を体感できる公園や博物館もあり、地域の文化や観光資源を楽しむことができます。地域住民の生活の充実や健康寿命の向上に向けた様々な取り組みが行われており、地域の発展に向けた努力が続けられています。

内容 1 健康寿命のばしマッスルプロジェクトについて

地域の健康寿命の延伸を目指す取り組みです。このプロジェクトは、地域住民の健康づくりに重点を置き、特に筋肉の重要性に注目しています。

このプロジェクトの主な目標は、地域住民の健康寿命を延ばすことで、地域の住民が元気で活力に満ちた生活を送るために、筋肉の健康を重視している点が特徴です。



2 成果と効果⇒いろいろな事業へ展開

- ・参加者の医療費への効果、後期高齢者の医療費の削減
- ・コロナ禍での参加者の高い歩数状況の維持
- ・専用端末の画面に表示したり、YouTubeでの動画配信による周知でコロナ禍での周知が出来た
- ・厚生労働省健康局長自治体部門優良賞の受賞(平成28年11月14日)
- ・フジテレビとくだね!取材(平成29年4月27日放送)
- ・内閣府の経済財政諮問会議における「先進・優良事例」としての選出等
- ・志木市いろは健康21プラン推進事業実行委員会を立ち上げ、市民の健康寿命延伸及びスポーツを通じた健康づくりと賑わいの創出を目的とした事業を市民の視点、活動で展開中

3 新たな健康づくりの展開

「志木っ子元気!子どもの健康づくり事業」

小学校期の「足部の骨・関節・筋肉の発達、神経系の発達、足裏のセンサー(触覚)機能の発達、足爪機能の発達」に着目し、足部の筋力や形状、足爪、足指の状態の計測による見える化を行い、子どもの体力や身体機能向上を目的として実施している。

「働く世代の健康づくり事業」

働く若い世代(20歳代～40歳代)を対象として、健康意識を高め、体力向上や運動の習慣化、ストレスの緩和などを目指す。民間活力とコラボして実施する健康づくり事業



4 質疑応答

- ・健康ポイント事業の利用人数は?
→現状3000人以上の利用者がいます。
- ・コース使用時の安全対策は?
→安全対策として、道路表示や看板等による呼びかけを実施しています。

5 委員所感

【中本 和行】

ポイント事業の先進地である志木市の事業ですが、健康予防対策の取り組み。

楽しみながら競って健康になるように目標を定めポイント化して、商品券に交換する参加者も年々増えて市民の意識が変わり行動変容も自然に起きている。

当市では、3本の川があり、この地の利を活かして河川敷での運動、散歩してウォーキングの普及に力を入れて「みんなで進める健康寿命日本のまちづくり」は先進的な取り組みです。

今後は、病気にならない施策に力を置き「身近な所でジョギング、町歩き、ウォーキング」など運動に積極的に取り組む必要があると感じました。

【萬谷 竹彦】

ノルディック・ウォーキングを健康運動教室に取り入れ、生活習慣病の予防・改善につながる成果に加え、ノルディック・ウォーキングの自主的なサークルができていることが注目されます。志木市では、「ノルディックウォーキング・ポールウォーキング全国大会」も開催していますが、その運営の中心は市民の皆さんという事。さまざまな活動を通じて、生きがいを感じ、仲間も増えたという声が届いているそうです。そんなノルディック・ウォーキングの持つ可能性に期待したいとの事。健康寿命の延伸も含め、取組んでいきたいと思えます。

【林 節子】

志木市では、超高齢社会を迎え今後の医療費の増加を見越し、新たな健康づくり事業を実施。

「歩くこと、筋力アップトレーニング・食事コントロール」の指導を行い、変化が見られた場合、商品券と交換可能なポイントを付与するという、2つの事業で構成されている。

内容は、河川敷や公園コースなどを選び、自身の体力に合ったコースを楽しく歩く、栄養指導（減塩）や調理実習も受けることができる。「志木市いろは健康ポイント事業」と呼ばれ参加者も増えている。健康に無関心である方や、外出が嫌いな方は、人と関わることで認知症、うつ病予防になるので、心も身体も健康になる事業だと感じた。

【中村 譲】

「健康寿命のばしマッスルプロジェクト」は、地域の健康づくりに対する取り組みとして非常に価値のあるプロジェクトだと感じます。健康寿命の延伸は、高齢社会を迎える日本において重要な課題であり、その実現に向けた取り組みは喜ばしいことです。

このプロジェクトの名前にもあるように、マッスルを重要視している点が特筆すべきです。筋力は身体の基本機能を支える要素であり、筋肉の健康維持は体力や運動能力の向上につながります。地域の住民に対して適切な運動指導や健康情報の提供を行うことで、健康寿命の延伸に寄与することが期待されます。

また、地域の住民との連携を重視している点も評価できます。地域に根差したプロジェクトは、住民の参加や意識改革によって大きな成果を上げることができます。地域の皆さんが主体的に健康づくりに取り組むことで、共に成長し、良い健康習慣が定着していくと思えます。

総括すると、「健康寿命のばしマッスルプロジェクト」は、志木市役所の地域への貢献と住民の健康増進に向けた前向きな取り組みとして高く評価します。引き続き、地域全体での取り組みを促進し、健康で活力ある社会の実現に向けて頑張っていただきたいと思えます。高齢化が進む光市に於いても、大変参考になる取り組みだと思えました。

【西村 慎太郎】

健康寿命を延ばすことによる前向きな効果をこの視察では感じました。健康で自立した生活ができる期間が延びることで世帯の医療費削減効果があり、普段の生活にもゆとりができることがデータとして示されており大変勉強になりました。また、日常の「歩く」という行為によって市で使えるポイントが付与されるようなシステムを採用しており、この事業に参加することによって健康にもなるし買い物もできるということが高齢者の事業への参加率も比較的高くなっておりました。参加することによるメリットがわかりやすい点がポイントであると個人的には感じました。光市においても、市民の健康について考える余地がまだまだあ

ると感じます。光市で健康に長く住み続けていただくための事業、事業に参加することによって市民に還元されるような事業の構築が人口減少対策へのアプローチの1つになるのではないかと感じました。

こう志会視察報告書

日 時	令和5年7月1日(土) 9時半～11時
場 所	東京都港区新橋2丁目21番1号 会議室マイスペース新橋汐留口前店
テ ー マ	大切な人を自死で亡くすということ
講 師	NPO法人セレニティ 代表 田口まゆ

- 内容
- 1 講師自己紹介
13才の時に父を亡くす
NHKテレビ出演を機会に日弁連宇都宮会長が支援
2011年にNPO法人を立ち上げ、自死遺族当事者として活動する
 - 2 自死遺族への支援活動
自死遺族関係者は多いが、全部自分たちの責任と閉じ籠もってしまう方が多い
批判や評価ではなく、ただ自分の話を聞いてもらえる安心感が求められている
「自死遺族への差別偏見」というものがあることを多くの人に知ってもら
 - 3 遺族の直面する問題
自死遺族の間で悲しみ比べが起きることが多い
賃貸物件の大家からから、莫大な原状回復費用を請求される事例が多々あり
 - 4 これからの取り組み
家族や学校以外の第3の居場所（サードプレイス）が必要
遺族分ち合いの会やグリーンケアサポートなどに取り組む
一人一人の対話とコミュニケーションが重要である
 - 5 質疑応答
自死が発生した場合、自死遺族にどう接すればよいか？
→個人によって異なるが、コミュニケーションとることや話を聞くことが重要
賃貸物件の原状回復請求の目安は家賃3月分が適当と思うが事例あるか？
→もっと大きい額を請求された事例もあった不動産関係者の基準があると助かる



6 委員所感

【中本 和行】

13歳で父を自殺で亡くした自死遺族の田口講師の過去のつらい思いを胸襟を開いてお話を頂きました。「自死遺族への差別偏見を失くす会」を設立されてNHK、各社新聞、市民講座などに講演など精力的に活動しておられます。

最後に、自死遺族はこうだよ、といいつつ、その人自身を知ることが大切であると思います。

自死遺族と差別偏見について大変勉強になりました。

今後、田口さんの思いを紹介しながら活動に活かしていきたいと思いました。

【萬谷 竹彦】

自死遺族への差別偏見の問題を考える活動をされているとの事。自身の経験を基に、話をされるだけあり、とても心に刺さる講演となりました。やはり、残された遺族の大変さ、一つ一つの言葉の重さを感じました。その差別は当然、無いように心がけると共に、やはり自死を防ぐという観点からの活動も大きく意味を持つと思われます。しっかりと取り組んでいきたいと思っています。

【林 節子】

13歳の時に父を自死で亡くされた。当時の教師に受けた差別偏見をきっかけに活動。

自死による摂食障害や、母を支えるヤングケアラーである。

身内に自死遺族がいるだけで、人に頭を下げて生きていく、悲しみくらべなど、自死遺族の立場からの貴重なお話が聞けた。そこから、自死遺族であるからこそその視点で、子供たちのサポートをされ、救われている方々は沢山いると感じた。これからも差別偏見が無くなるよう活動して頂くことに感謝します。

【中村 譲】

大切な人を自死で亡くすという経験は、非常につらく心の傷が深いものです。しかも、その後に自死遺族が直面する差別や偏見は、さらなる苦しみを引き起こすものと感じます。

父親の自死のあと、先生に言われるがままにクラスメイトに頭を下げた朝礼での出来事、母の憔悴した姿そして自死未遂。多感な時期に壮絶な経験をされて、とても辛かったのは、簡単に想像できました。

先生が涙目で見てきたり、周囲からは遺産の事を聞かれたりと常に人目を気にする毎日で心身ともに休まることが無かったのではないのでしょうか。

心の回復には時間がかかるものです。自死遺族が抱える感情や悲しみを尊重し、サポートすることが大切です。

自死遺族への支援は、プロのコウンセラーや専門家のサポートが不可欠ですが、地域や周囲の人々の温かい理解と受け入れも重要です。自死遺族が苦しい経験をして、偏見によってさらなる苦しみを背負うことがないように、社会全体で気配りと支援を行っていく必要があります。

【西村 慎太郎】

自死遺族に向けられてきた偏見や苦しみという話を聞くのが初めてだったため、言葉の端々に重みを感じました。体験談として、賃貸物件での自死とその後の対応についての話もあり、非常に興味深い内容でした。人によって解釈がことなるため、適切な対応がどういったものになるのかは難しいですが、同じような体験をした人がいたらまずは相手の話をしっかりと冷静に聞くことが重要であるとわかりました。今後の活動に活かしていきます。